



平成九年十月二十六日発行
編集 社寺建造物美術協議会
発行 小西 陳雄

〒108-0074 東京都港区高輪一五二二
(株)小西美術工芸社 内
TEL (03) 3447-1481
FAX (03) 3447-0736

第九回

社寺建造物美術協議会 通常総会並びに研修会報告

第一日 平成九年
九月十六日(火曜)

今年には台風が多いなあ、十九号は果たしてどうか、などと考えながら、会員各位の集まる「静岡」へ新幹線で向かう。予定は十二時三〇分。

どうやら曇天にポツポツ雨の気配。久し振りの会員の顔。何時もながら都合をつけてお出で頂いた全文連の後藤局長の元気なお顔も見え。川面・大谷両部会長も、その他の会員諸氏。

今回は当地の田村会員には色々ご尽力願ひ、輸送用にワゴンを提供して頂き、事務局の小西美術からも一台出て、

移動は万全。

まずは久能山東照宮が第一目標。「日本平」駅からロープウェイで「久能山」駅へ。天候の悪いニュースの故か割と空いている。ゴンドラも揺れずに到着。社務所へ向う。担当の藤田祐宜に迎えられ、菊田権吉司、桜井祐宜もお見え。早速、手水の儀の後、拝殿へ昇殿させて頂き正式参拝となる。

徳川家康公没後の元和二年から三年にかけての短い工期で、これだけの造営をされた当時の設計と施工の伎倆に敬意を表し、太平洋の風と潮のしぶきの直撃に良く持ちこた

えているものかなと、苛酷な条件を再認識する次第。

御墓所で礼拝をしてから、引き続き藤田祐宜に御宮のさまざまな沿革を承る。西向きのお墓の家康公の心境は、会員の皆さんも成る程と頷いて居られる。次いで、様々な宝物で溢れかえる程の宝物館を拝見し、流石と感服する。

社務所へ再び戻り、全文連理事長であり、この会報「すいかずら」の題名の御揮毫を頂いている松浦宮司は御健勝の御様子で、文化財建造物の保護のあり方、修理の処し方に鋭い御意見を述べられる。

我々の考え方や願望を指摘されるのは、これまた流石と申し上げる他はない。去り難きを辞し次の予定地へ向かう。ロープウェイでは宮司とご一緒。スチューワーデスに気楽に冗談を言われ、ゴンドラ中に

笑いが拡がる。この自然躰は真似て真似られるものではない。この洒脱さを学ぶのも研修の内かな、おっと失礼。

日本平から静岡市中心部へ向かう。豪華華麗な建造物のたたくまいは、背にした緑濃い神域と共に、都会の中のおやしるをわすれさせる程の静寂に包まれている。左伴宮司、上野祐宜御不在で、崎山権祐に御案内いただき、広大な

拝殿で正式参拝をさせて頂く。狩野派二大画師の天井絵(飛天など)は今も尚鮮烈な光芒を放っている。小造りな技巧の詰まった八千弋神社脇の通路の石段を昇り、特別のお計らいを感謝しつつ、御本殿に参拝させて頂く。この江戸中期の事業は、鍔金具の品格の高さ、荘重堅牢な漆塗り、自由自在に技術を凝らした極彩色など学ぶべきものが多々ある。墓彫彫刻の鳴きうづらのお話などは、まことに印象深くさもありなんと拝聴する。

麓山神社、他の神社等は時間の都合もあり研修出来なかつたが、良い収穫を得て当神社を辞し今夜の宿へ急ぐ。

台風の為か沖合に漁火は見えないが、勝景の海岸の宿で

久闊を叙し、又文建協参与の五味盛重先生も御来駕になり賑やかに懇親の宴を張る。今夜で帰られる酒井清会員(株さかい社長)の黄綬褒章受章の御披露をさせて頂く。酒間の内にどうやら次回総会の開催地も決まりかける。

第二日、九月十七日(水曜)

早朝、台風十九号の進路は九州を通過し、四国・中国地方へ移っている。当方はこれで助かったが、あちらも文化財が多い。無事を祈りたい。朝食後、旅荘の会議室で両先生の御講演を拝聴する。

まず御多忙の折、ご出席頂いた五味盛重先生から「城郭建築と石段の復旧整備について」のお説を承る。豊富な写真入りの資料を配布され、城建築の始まりとされる安土城の様子からスタートする。確かに織田信長以前の武將は巨大な砦(城)を築かなかつた。城を築く際の石積み関係につき興味深いお話を伺う。静岡県下の横須賀城とか、阪神大震災後の明石城の様子とか石積み構造の変遷とか、発掘で現れた城址のロマンを偲